



わだち 『轍』

～共に刻む、成長の軌跡～

令和8年6月3日 No.5

文責 校長 貞松 弘人

『引き渡し訓練』 ご協力ありがとうございました！

5月27日(水)、『引き渡し訓練』を実施しました。ここ数年、異常気象が毎年のように繰り返され、突然線状降水帯が発生し、水害の危険性が増加の傾向にあります。

そこで、生徒の命を守ることを目的としていざという時に慌てないために『引き渡し訓練』を行いました。当日は、様々なトラブルがあるかもしれないと、職員一同緊張しながらの実施となりました。約60世帯の参加があり、どの地区の保護者の方々も時間を守り、整然と並んでいただき、スムーズな引き渡しことができました。また、**PTA保体・生活部のお父さん方のご協力**もたいへん助かりました。

本当にご協力ありがとうございました。



スマホ・SNS との関わり方を話し合ってみてはいかがでしょうか？

先日、武雄市連合PTAの総会がありました。その中で、『**スマホの取り決めリーフレット**』の紹介がありました。各家庭にも配布されていると思いますが、ご一読いただけただでしょうか？

では、生徒たちの間では、実際にどのようなトラブルや困りごとが多いのでしょうか。具体的には以下のような事例が挙げられます。

- ✓友だちから仲間外れにされる、友だちを仲間外れにする。(SNSいじめ)
- ✓スマホのオンラインゲームやSNSに没頭し、日常生活や勉強をおろそかにしてしまう。
- ✓SNSを通じて知り合った人と不用意に会い、性的被害にあう。
- ✓自撮り写真をSNSに投稿し、ストーカー被害にあう。

私たちがはじめに思いつくことは「利用時間の制限」です。「スマホよりも、勉強に集中してほしい」「睡眠不足や生活習慣が乱れるのを避けたい」という思いから、親自身でルールを設定することを考えます。でも本来は、**子どもが自ら勉強や正しい生活習慣の必要性を感じ、自主的に勉強時間の確保や生活習慣の改善に取り組めるようになること**がいいですね。

そこで、「親自身が心配している気持ち」を伝えたくて、「これらの状況にならないようにするにはどうすればいいか」を子ども自身に考えてもらう方法はいかがでしょうか。子どもがしっかり考えて導き出したルールには、責任感も生まれてきます。ルールを守りやすくなり、セルフコントロール力を高めることにも役立ちます。

スマホの取り決めリーフレット

武雄市内小中学校保護者の方へ

【武雄市連合PTAの基本方針】

児童生徒には、原則、携帯電話・スマートフォン等は持たせない。
持たせた場合の責任は、「学校ではなく保護者です。」

携帯電話やスマホ等の情報機器は、とても便利なツールである一方で、インターネット上のトラブルは保護者や教員の目が行き届きにくいために、様々な犯罪や問題が発生しています。
武雄市連合PTAは、上記の基本方針を基に、市内小中学校のPTA・育友会、学校と連携して、未然防止、早期発見、早期対応に取り組み、子どもたちが安全で健全な生活を送ることが出来る環境づくりを推進していきます。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

携帯電話・スマホ等は、子どもが正しく使うための判断や能力をもっていないと、刑事責任を問われる事件、自他の生命を脅かす事件等を引き起こす危険なツールとなります。持たせた場合は、保護者として覚悟をもってリスク管理が必要です。

個人情報流出
画像流出

高額請求
クリック詐欺
架空請求

有害サイト
ゲーム依存
ネット依存

LINEやメール、SNSでのトラブル

悪口、いじめ
仲間はずれ

犯罪加担
(受け子等)

昼夜逆転
不登校

ネットいじめ
SNSやブログ上で、フルネームを公開し中傷する等、個人に対する不適切な書き込みが多く見つかっています。それが更なるいじめや事件へ発展するケースもあり、深刻な問題となっています。

ネットトラブル
架空請求やワンクリック詐欺の被害以外にも、無料ゲームの中で「有料アイテム」を次々購入し、月10万円以上使ってしまったケースもあります。また、スマホで撮影した写真をネットにアップし、住所を特定される等のトラブルも増えています。

ネット依存
ゲームやインターネット等を夜まで使い続け、生活のリズムが昼夜逆転してしまい、不登校の原因となることもあります。ネット依存症の中高生は全国で93万と急増と推定されています。
(©2017年 厚生労働省の調査より)

- 武雄市内の小中学校では、学校内へ持ちこむことは禁止されています。
- 武雄市内小学生は、SNS (LINE, Facebook, Instagram, X, 掲示板等) は、被害やトラブルを防ぐために利用しないことになっています。
- 持たせた家庭は、制限をかけたり、ルールを決め定期的な確認や使用状況の把握をしてください。正しく使えてない場合は、利用させないことが子どもを守ることに繋がります。

武雄市連合PTA

※リーフレットは、武雄市連合PTAホームページよりダウンロードができます。

以下のように「ルールを守ると、使える自由が保証される仕組み」もおすすめです。

- ・やるべきこと(宿題や、身支度など)をしっかりと終わってから、スマホを使う。
- ・用事が発生したら、スマホの利用をすぐにやめて対応する。
- ・就寝時間になったら、スマホの電源をオフにする。

子ども自身がルールを守ろうと思える仕組みをつくる

ることこそが、適切なスマホの利用に有効です。
なお、ここに挙げたことは一例ですので、各家庭に合うルールを探ることが大切になります。

ルール会議：家族で話し合う

時間 _____
場所 _____
マナー _____

家ルール

時間・場所・マナーをみんなで。

時間：利用時間を決める

21:00

場所：寝室への持ち込み禁止

寝る前は保管場所に。

～校長室の窓から～ 「いってきます」「ただいま」のその先へ ～親子の会話をつなぐヒント～

さて、突然ですが、最近、ご家庭の中で「親子の会話」はどのくらい交わされているのでしょうか。「最近、うちの子は学校のことをあまり話してくれなくて……」というお悩みを、面談などでよく耳にすることがあります。思春期を迎えた中学校の時期は、子どもたちが精神的に自立し始める大切なステップです。小学校の頃のように「今日ね、学校でこんなことがあって！」と何でも自分から報告することは少なくなり、少し素っ気ない態度をとることも増えてきます。これは順調な成長の証でもあるのですが、親としてはやはり学校での様子が気になるものですね。

では、どのようにすれば、子どもからスムーズに学校の話を引き出すことができるのでしょうか。いくつかのヒントを提案させていただきます。

まずは、「質問攻めにしないこと」です。「今日テストどうだった？」「宿題は終わったの？」といった、親が確認したいことばかりを矢継ぎ早に聞いてしまうと、子どもは警戒して「別に」「普通」と口を閉ざしてしまがちです。

おすすめなのは、「親の日常や失敗談から話してみる」という方法です。「今日、お母さん仕事でこんな面白いことがあってね」「お父さん、ちょっとうっかりミスしちゃってさ」と、まずは**大人の側から自己開示をしてみる**のです。親の等身大の姿を見ることで、子どももリラックスし、「そういえば、学校でもさ……」と話しやすくなります。

また、リビングで一緒にテレビを観ている時や車での移動中など、「視線が直接合わないシチュエーション」も狙い目です。正面から向き合うと照れくささや圧迫感がありますが、横並びの空間のほうが、意外と本音や学校の出来事をぽつりぽつりと話してくれることがあります。

たとえ短い言葉であっても、**子どもが話し始めたら、まずは手を止めて「そうなんだ」「それは楽しそうだね」と最後まで耳を傾けてあげてください。**家庭が「自分の話をいつでも聴いてもらえる安心な場所」であると感じられれば、子どもたちは外で少し元気がない時でも、自然とサインを出してくれるようになります。

学校と家庭は、子どもたちを支える車の両輪です。ぜひ、ご家庭での小さな会話のキャッチボールを大切にしてみてください。学校でも、生徒たちが生き生きと語り合える環境づくりに努めてまいります。